

30

20

10

0

JAPAN

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

柳田文庫

文庫11

A 104

7

萬葉集略解

四上





文庫11  
A 104  
7



萬葉集卷第四

相聞

難波天皇妹奉上在山跡皇兄御歌一首○岡本天皇御  
製一首并短歌○額田王思迎江天皇作歌一首○鏡王  
女作歌一首○吹黃刀自歌二首刀と力  
子誤○田部忌寸櫟子  
任太宰時歌四首太宰の下帥のすと経やる  
今文子をもくは思てちる○柿本朝臣人麻呂  
歌四首○基禮越往伊勢國時留妻作歌一首基本文子  
暮よ能る○  
柿本朝臣人麻呂歌三首○柿本朝臣人麻呂妻歌一首  
○阿部女郎歌二首○駿河嫁女歌一首○三方汎弥歌  
一首○丹比真人笠麻呂下筑紫國時作歌一首并短歌  
○幸伊勢國時當麻麻呂大夫妻作歌一首○草娘歌一  
首○志貴皇子御歌一首○阿倍女郎歌一首 中臣朝

柳田泉文庫

臣東人贈阿倍女郎歌一首 阿倍女郎報贈歌一首 報  
と一本苦 み假る ○ 大納言兼大將軍大伴卿歌一首 ○ 石川郎女  
歌一首 ○ 大伴女郎歌一首 後人追同歌一首 同平文の一  
○ 藤原宇合大夫遷任上京時常陸娘子贈歌一首 ○ 京  
職大夫藤原麻呂大夫贈大伴郎女歌三首 藤を草と伴上  
大伴郎女和歌四首 ○ 大伴坂上郎女歌一首 大と太良  
上女王御歌一首 海上女王奉和歌一首 大伴宿奈  
麻呂宿祢歌二首 歌字 と既 ○ 安貴王戀歌一首并短歌  
門部王戀歌一首 と既 ○ 高田女王贈今城王歌六首 ○ 神  
龜元年甲子冬十月幸紀伊國之時為贈從駕人所説娘  
子笠朝臣金村作歌一首并短歌 ○ 二年乙丑春三月幸  
三香原離宮之時得娘子笠朝臣金村作歌一首并短歌

五年戊辰太宰少貳石川朝臣足人遷任錢于筑  
前國蘆城驛家歌三首 ○ 大伴宿祢三依歌一首 ○ 丹生  
女王贈太宰帥大伴卿歌二首 ○ 太宰帥大伴卿贈大貳  
丹比縣守卿遷任民部卿歌一首 一首の と既 ○ 賀茂女王贈大  
伴宿祢三依歌一首 ○ 土師宿祢水道後筑紫上京海路  
作歌二首 ○ 太宰大監大伴宿祢百代戀歌四首 ○ 大伴  
坂上郎女歌二首 ○ 賀茂女王歌一首 ○ 太宰大監大伴  
宿祢百代等贈驛使歌二首 ○ 太宰帥大伴卿被任大納  
言臨入京之時府官人等餞卿于筑前國蘆城驛家歌四首  
○ 太宰帥大伴卿上京之後滿誓沙弥贈卿歌二首 大  
納言大伴卿和歌二首 ○ 太宰帥大伴卿上京之後筑後  
守葛井大成連悲歎作歌一首 ○ 大納言大伴卿新袍贈

攝津大夫高安王歌一首○大伴宿祢三依悲別歌一首  
○金明軍興大伴宿祢家持歌二首○大伴坂上家之大  
娘報贈大伴宿祢家持歌四首○大伴坂上郎女歌一首  
○大伴宿祢稻公贈田村大娘歌一首○笠女郎贈大伴  
宿祢家持歌二十四首○大伴宿祢家持和歌二首○山  
口女王贈大伴宿祢家持歌五首○大神女郎贈大伴宿  
祢家持歌一首○大伴坂上郎女怨恨歌一首并短歌○  
西海道節度使判官佐伯宿祢東人妻贈夫君歌一首  
佐伯宿祢東人和歌一首一音の字○池邊王宴誦歌一首一音の字  
天皇思酒人女王御製一首○高安玉襄  
鮒贈娘子歌一首○八代女王獻天皇歌一首○娘子  
報贈佐伯宿祢赤麻呂歌一首○佐伯宿祢赤麻呂歌一

首本文歌字  
上和の字○大伴四綱宴席歌一首○佐伯宿祢赤麻呂  
歌一首○湯原王贈娘子歌二首○娘子報贈歌二首  
湯原王亦贈歌二首○娘子復報歌一首本文報の下  
湯原王亦贈歌一首○娘子復報贈歌一首○湯原王亦贈歌  
一首亦と人  
湯原娘子復報贈歌一首○湯原王歌一首○紀  
女郎怨恨歌三首○大伴宿祢駿河麻呂歌一首○大伴  
坂上郎女歌一首○大伴宿祢駿河麻呂歌一首○大伴  
坂上郎女歌一首○大伴宿祢三依離復相歡歌一首○  
大伴坂上郎女歌二首○大伴宿祢駿河麻呂歌三首○  
大伴坂上郎女歌六首○市原王歌一首○安都宿祢年  
之歌一首本文歌字と脱本  
文えと足字化○大伴宿祢像見歌一首宿祢の  
字と絆○安  
倍朝臣蟲麻呂歌一首○大伴坂上郎女歌二首○厚見

王歌一首○春日王歌一首○湯原王歌一首 和歌一首  
不審作者○安倍朝臣蟲麻呂歌一首○大伴坂上郎女歌二首○中臣女郎贈大伴宿禰家持歌五首○大  
伴宿禰家持與交遊別久歌三首本文久の意先○大伴坂上郎女  
歌七首○大伴宿禰三依悲別歌一首○大伴宿禰家持  
贈娘子歌二首○大伴宿禰千室歌一首 未詳○廣河  
女王歌二首王字下ノミハ雙○石川朝臣廣成歌一首○大伴宿  
禰像見歌三首○大伴宿禰家持到娘子之門作歌一首  
○河内百枝娘子贈大伴宿禰家持歌二首○巫部麻蘇  
娘子歌二首○大伴宿禰家持贈童女歌一首 童女和  
贈大伴宿禰家持來報歌一首本文和子持本又八事先○粟田娘子贈  
大伴宿禰家持歌二首○豐前國娘子大宅女歌一首

安都麻娘子歌一首○丹波大女娘子歌三首○大伴宿  
禰家持贈娘子歌七首○獻天皇歌一首○大伴宿禰家  
持歌一首○大伴坂上郎女後跡見症贈賜留宅女子大  
娘歌一首并短歌○獻天皇歌二首○大伴宿禰家持贈  
坂上家大娘歌二首○大伴坂上大娘贈大伴宿禰家持  
歌三首 又大伴宿禰家持和歌三首 同坂上大娘贈  
家持歌一首 又家持和坂上大娘歌一首 同大娘贈  
家持歌二首 又家持和坂上大娘歌二首 更大伴宿  
禰家持贈坂上大娘歌十五首○大伴坂上郎女後竹田庄贈  
妹坂上大娘歌四首妹と娘又誤○大伴坂上郎女後竹田庄贈  
賜女子大娘歌二首○紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首  
大伴宿禰家持和歌一首○在久邇京思留寧樂宅坂

上大娘大伴宿祢家持作歌一首宅の下舊京二字を文すとぞされ  
除後化教の下一首の字と  
藤原郎女聞之即和歌一首○大伴宿祢家持更贈大娘  
歌二首○大伴宿祢家持報贈紀女郎歌一首○大伴宿  
祢家持後久邇京贈坂上大娘歌五首○大伴宿祢家持  
贈紀女郎歌一首紀女郎報贈家持歌一首大伴宿  
祢家持更贈紀女郎歌五首○紀女郎報贈家持報贈藤  
原朝臣久須麻呂歌三首三を二  
又家持贈藤原朝臣久須麻呂歌二首又家持贈藤原朝臣久須麻呂歌二首  
藤原朝臣久須麻呂來報歌二首

相聞

難波天皇妹奉上在山跡皇兄御歌一首妹の上室の字

ト天皇ハニ徳天皇也、女十人、女九人、おもよよせば、ばづれや  
さくちくもあくも、宣見ハミ子の清中也

一日社人母待告長氣乎如此所待者有不得勝

ひとしきう。ひときまくづけ。なまけを。がくまくわら。あわがてなくも  
みづくづく。ひきとくづく。ちまくまく。月日久く休とく。玉くすく  
はねかくまく。宣見ハ耳の邊よく。がくのみまく。とくすく

いづり

岳本天皇御製一首并短歌

製の下歌の字と爲せよ

神代役生繼來者人多國爾波滿而味村乃  
かみづる。あれづきくれば。ひとはふくすみちて。あぢむらの。

去來者行跡。吾戀流君爾之不有者。晝波日乃久流苗麻豆。  
室とハぬけど、わのこゝる。まよアおうね、しるハ、ひのくもくまで  
夜者。夜之明流寸食念乍。寐宿難爾登。阿可思通良久茂。  
よもハトのわくまきをえ。ゆかひて。りねびてすて。あつづへく。

長此夜半

やうのまことのよつを

あれ種ハ生をほく、まむじの材羽、れの大波のくれどもしつれでめま。  
登ハ死豆二字の誤ちもべー、又ハ首の邊もとてもむべー、まよばりねうてよつべー。  
例べて、おうすくすくつのとと署く例おほくあいとれき、あつづくべー  
あつづくと返えナハ妙鳥、そハ新の天皇女をもうりうきくとよまセ  
まくまく、リ後岳左の清音よせバ齊川天皇いまぐ后ユキマヨル  
ほくよ、新の天皇とをもくせーとまくべーとまくべー、まよせり

反歌

山羽爾味村驥。去奈禮騰。吾者左夫思惠。君ニ四不在者  
やまのはふ。あらむむらさわざ。ゆくもれど、われハさずちまみづの。ね  
あらむむらさわざ。ゆくもれど、われハさずちまみづの。ね  
ゑハさずちよりよ。ゆくもれど、われハさずちまみづの。ね  
味魯と舞り人すとくもくも

将有

あすみぢの。どこのやまする。いやうはげの。このごろハ。こひつ。あくん

半十一枚上の。どこのしやま。いさやうに。よもや。もハちよひ。よも

ソヨロト、宣モミタハ乃の湯をとつまき、れいも、向こりみ代の  
名をやうて女之情をいきま事にりよシヤトガ、テ、まの縁結、シテ  
トモチニ唐てサムシム、ト新。

トモチニ唐てサムシム、ト新。

右今案高市岳本宮後岡本宮二代二帝各有異焉。但  
備岡本天皇赤審其指

ほくのちかへく

額田王思近江天皇作歌一首 天守ハ天守也、額田王思の  
天守を守らめをれ」と、天武乙巳太、すまくおりませーけ、トモ、清ん  
とかげまく半一の守まくとも、あーく、ももいと

君待登、吾戀居者、我屋戸之、簾動之、秋風吹

まみまつと、わのこしをれ、わ、やどみ、もとづねうとう、あさのかざよく  
おひりうみれ、羞の風まむくも、思の入る風まくとも、すまくべ、  
ま、みまゆゆく、秋之風吹、トモ、すまく

### 鏡王女作歌一首

天武紀ノ天皇初娶鏡王女 紀ノ女之字枝う人新日ナ

額田姫王生十市鬼女ミシコヌ、ミヌエ王女トモハ、湯ヲ、鏡女王トヨヘ、  
キテ後女王ハ別陵王の女ミシ、額田女王の妹也、室也、此又ミハ近  
江野間郡の後里也、ゆきり、かす後ヨミトアセヤツク、モ女子モミシ、父  
のくよ候あらひ、か後王とゆくも、ちうれど、父とまき、くも附ハ女の方と、  
後女王ヒリト、ももるやく、次ニ内大臣の聘するも、あるが、いま、  
天守を守まハ、まく、もの、ゆりく、べき、ト、

風乎太爾、戀流波之、風小谷、将来登時待者、何香将嘆  
かせを、すふ、くするハ、と、ト、カセを、すふ、くすり、また、わ、みつるけ、の  
必、あんめい、と、と、やく、ハ、行、ハ、能、て、ま、風、す、矣、と、解、ハ、之、く、て、め、  
ま、か、ま、け、く、と、宣モミタの匂、く、よ、ハ、と、も、の、匂、く、よ、ハ、と、も、の、匂、く、よ、  
の、く、よ、風、く、よ、す、あ、ハ、ト、リ、と、よ、ニ、匂、く、よ、す、あ、ハ、あ、め、額田

女王の天皇へ至るまことにかくよめとくわいおとしの事  
此あくやみ生ハテ多く哉

吹黄刀自歌二首 改分

真野之浦乃興騰乃繼橋情由毛思哉妹之伊目爾之所見  
まゆのうみのよのつきはひそゆもゆりやいもが、いそみみゆる  
ちつ草浦梅浦くちづくらは波せき橋やうべ、織橋へこの海の橋  
のぬく、やま岸のゆきすみくちく、急波せるとこ、さう、往橋とよ  
とやさく残すをまよひて、そひゆもひんよひく、やかんや、  
さくやのぞと里うる、伊同へ音へ、をひいりとひく、往く、處てふるまの  
されば、いめとひよこと妻仰して、ばうねといつて、ハ男のすく吹黄  
刀自（男すくと吹く）て、強國（うきよ）く、高きとくとく、火主（ひぬし）へのうく、  
力自（和へあく）ヌれバ、さう、後荷乱失（ごりそく）

河上乃伊都藻之花乃何時何時来益我背子時自異目八  
方

かののいつものまみの、いつじらすき、あせり、わづせこども下けめやも  
いつば五百疊（よほ）く、えくまく、唐（とう）りとくべ、さう、さく、いとん序  
の、自是（じぜ）ばかりく、叶（は）く、ゆく、うそ（うそ）く、いとく、うそ（うそ）く、いとく、  
ゆく、うそ（うそ）く、いとく、うそ（うそ）く、いとく、うそ（うそ）く、いとく、うそ（うそ）く、

田部忌寸櫟子任太宰時歌四首 侍一あれ

衣半爾取芋騰已保里哭兒爾毛益有吾年置而如何將為  
ころりとよとよと、こほめ、なぐくとく、まくわうれを、が、まく、い、せん

舍人千年

母のえう先のまづびきくよまむるうあるも、じと、え、度（たか）む者（もの）  
名も、樓子（たかこ）が、捨（す）き、はせ、ま、が、よも、と、え、ゆ

置而行者妹將戀可聞敷細乃黑髮布而長此夜半  
なまうゆづばいもこひんうむまうこのくろのまへまうやまう

田部忌す櫟子

え唐かすらに毛様ようすく毛ハ志の音まわあらそく妹ハ傳ひま妻と云  
くらうまきとくは妹が妻のめづと下すまくとく  
吾妹兒矣相令知人乎許曾戀之益者恨三念

わざきむことあいとくりびとをうてこいのまきればうとタムズ

を下め隣セーハとく、御し房にサリテ、毛モ佐木

朝日影雨保敵流山爾照月乃不厭君宇山越爾置手

あきひうげふやへるやまかてるまきのあうごくまきとやまうふおきえ  
ちのつよつきのひうろきとひしきやうてあるくこくいとくを序せす、

阿主様す、様主財、妻とまくあるとせりも、又ハ妻ア、いつのうも

柿本朝臣人麻呂歌四首

三熊野之浦乃瀨木綿百重成心者雖念直不相鴨

みくまみのうのたまゆりへなむ、そろひへど、ふあをぬのし  
あやハ紀ほみもく、屋ゆはし、便れやととり、すまの皮表まくひ  
まく、七月若竹も、その形を席のめくらくあらればどうり一ぢん、  
くもくもくのまくひとくとく、毛皮のかまれととくとく、玉をねる  
古爾、有無人毛、如吾歟、妹爾戀乍宿不勝家车  
いふへふ、あけんひくわうとく、いかふぞひつ、いねがてふけむ  
ちよとくん序よ設たて、だふあくねひたちよあくねとくとく

今耳之行事庭不有古人曾益而哭左倍鳴四

いまのみのわざとふがあくべしすみのじよどまつりてかなきとまき  
神ぬくとまきのいとへんもとまくしへとしして自らまくさじま  
百重ニ物來及毳常念鴨公之使乃雖見不飽有哉

りくもきおよべるとねりへとまきみうつうひのそれどあのまくさん  
及ハすむとまくはのいとめりこよーと空そくばすれどく便と  
あうやむかよとまく室せは二のうまくすくもとくとく、三のうとく  
じとよまんとくとく哉ハ武のほりとく

墓檀越徃伊勢國時留妻作歌一首 墓ハ氏檀越

神風之伊勢乃濱荻折伏客宿也

將為荒濱邊爾

かくのせのいせのはまをきをちよせとくむねやまくわきはまく

神風の檀洞和名抄萩

和名

柿本

柿本朝臣人麻呂歌三首

未通女等之袖振山乃水垣之久時從憶十吾者

モトウタのうてよもやまのみづみうみひきときゆぢりひことく  
とくが檀洞大和石と布留宇神多とついたくとくとくづ  
ぶきの檀洞とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

因縁と哉てべーき時由とかく

夏野去小牡鹿之角乃束間毛妹之心辛忘而念哉

たうつぬゆくをくのつらのつうゆすいわがこうくをこもれてかへや  
麻ハ夏のいとめよ角あてたひうらうがはまく経られ、走の立ちいえ  
序とせよ、かへもぞしむりひとくわんやく

珠衣乃狹藍左謂沉家妹爾物不語來而思金津裳

たまきぬ。さるやあさづみ、のいわすかの、いもぐくちかひよつし  
珠衣ハ羽扇考ニ半十叶安利伎奴乃、半十六蠟衣之とちむよろ  
て、珠衣と、あさづみと、あれど、行々むじねあれ、さうぞくく、  
古訓よも、うと、附解よはべ、さる、ハきやぎく、あづみハ清  
りか、えの遠き搖よびうつは妻が歌きよどくをうめんよ、の  
とくえよどくであれあるく、くえよどひほがくこと、こせ、  
半サゆきのきのうさぎよ又ぬよ物いとてまくうとくを候、まく  
もとあす、ばす半十四もすよ安利伎奴乃佐、サエサエ、  
オモヒノルエモト、載る人、同音くたうのたよ人麻を歌東中  
未、半記もく、ばす魚よハス、アシの、又他人の、すよにせ  
かくもくゆれば、人麻の、よく、字く、ちき魚、ハス、  
あすの櫻、よも枝の、おとくやれば、おきよ哉、もとを、くじく、

## 柿本朝臣人麻呂妻歌一首

君家爾、吾住坂乃、家道辛毛、吾者不忘、命不死者

キみづへふ、コレはみその、へちと、わらふ、こむれいの、もとや、むは  
神武紀、菟田高倉山の嶺、のびよて國ヤ、と、る路、すくみて、墨坂、  
焼炭を置く、大和宇陀院歌、ばあ半三人座るも、す、天、脣、や、唇の  
口と、玉、珠、子、が、里、う、あれ、で、い、す、も、う、て、脣、の、こ、市、歌、う、く、裏、  
往、よ、る、も、う、う、お、へ、う、れ、ま、室、も、う、う、あ、う、珠、子、玉、と、う、と、へ、う、住、  
い、も、ん、底、の、う、れ、ヌ、坂、ハ、清、ま、か、う、珠、子、裏、の、玉、坂、の、四、それ、で、彼、坂、  
大、わ、あ、あ、き、地、も、く、ま、人の、う、よ、ひ、き、石、ま、あ、く、き、い、と、も、ち、く、女、の  
許、へ、玉、子、と、住、い、す、、い、セ、あ、清、よ、業、ま、の、う、半、女、よ、行、き、の、輕、ひ、き、  
え、バ、女、の、う、ち、れ、バ、か、く、ハ、リ、う、う、も、こ、れ、う、り、お、か、し、行、

## 安倍女郎歌二首

因禪す阿教とさう

今更何乎可將念。打靡情者君爾。緣爾之物乎。

いはきくにたまむと。のゆきくへうらわづ。こころをみよ。よろすにものと

まや四五の。のとあが下の。ひまよし。まつねうせりんくよめく

吾背子波。物莫念。事之有者。大爾毛水爾毛。吾莫七國。

わざせこハカのややかひそく。わく。ひよとづく。われやけなく

お一音大きく。ぬるもか。もあづみの。まきと。まく。吾莫勿久。ホシヌ。あゆ

辛く。こぐまく。まげく。やと。へきり。まく。すく。りくと。まく。まく。大

み入ゆすの。り。の。す。あ。ま。と。さ。あ。ま。う。ふ。お。ま。す。う。れ。と。く。ま。ま。九

菫原。まく。女。の。す。水。こ。入。と。ま。入。ん。と。ま。む。う。ひ。そ。垂。に。て。空。の。空。た。換

換。大。と。入。と。ま。ひ。と。キ。ま。る。の。だ。替。換。の。ゆ。ま。ー。ま。の。ち。ま。わ。れ。と。れ。ま。や

も。と。ま。き。と。

駿河嫁女歌一首　まよ采女と嫁とまよ

敷細乃枕。後久久流淚。二曾浮宿。乎思家類。憇乃繁爾。ち  
ち。この。ま。く。ゆ。く。る。が。え。ぐ。か。で。う。ま。ね。そ。く。る。こ。い。の。土。づ。き。小

柄。よ。く。く。く。お。う。采。海。川。枕。き。く。ま。き。わ。お。ま。く。ト。ま。る。く。

三方沙彌歌一首

衣手乃別。今夜後妹毛吾母。甚懲名。相因乎奈美。

こうやでの。わ。う。も。こ。下。す。し。ゆ。い。り。これ。も。こ。く。こ。し。く。あ。へ。よ。う。ま。な。そ

常の。ほ。れ。の。け。よ。あ。ら。で。か。よ。く。て。再。達。ご。ま。く。み。が。く。ま。く。

丹比真人笠麻呂下筑紫國時作歌一首并短歌　丹比ハ

紀多治比氏。あ。ま。ま。麻。ら。く。傳。と。れ。ぞ。

臣女乃匣爾。兼有。鏡成。見津乃瀬邊爾。狹丹頬相。た。ま。や。の。く。じ。よ。の。れ。ふ。が。ぞ。や。く。と。み。つ。の。は。ま。べ。よ。ま。づ。ら。よ。

紐解不離。吾妹兒爾。戀乍居者。明晚乃。旦霧隱。

ひもまくけり。やまとこふくひつそれ。あけびの。あきがま。  
鳴多頭乃。哭耳之所哭。吾戀流。十重乃一闇母。名草漏。

ちくたづねのみーぢの。とづくらの。じくわなぐさかる。

情毛有哉跡家當。

五口立見者。

青琪乃。

葛

うふもあれや。とのあす。わづたちみれ。あをだこの。うづ  
木山爾。多奈引流。白雲隱。

天佐我留。夷乃國邊爾。

きやまに。なましける。まくわがくし。あまさる。じうのくわ。

直向。淡路卒過。

栗島卒。

背爾見管。

朝名寸

たむらひ。あはぢをらぎ。あはせをと。うびしよみつ。あまき  
二。水手之音喚。暮名寸ニ。搥之聲爲乍。浪上卒。五十行

に。かのことをよじゆかまきよかぢのと一つ。なみのへそ。いやま

左具久義。磐間卒。射往廻。稻日都麻。浦箕卒過而。  
さくみ。ものまを。いゆきかほり。いちじま。うみを。さく。  
鳥自物。奥津左比去者。家乃島。荒磯之宇倍爾。打靡。  
さくじめ。やすきひゆげ。そりへの。まあそこのへ。よくなひき。  
四時ニ生有。莫告我。奈騰可聞妹爾。不告來ニ計謀  
志。ふわひく。なのわそも。わすと。ひりかふのうじきよけん  
臣女まく。と仰されども。御のほう。ばニま。姫の字の説ひ。よしと  
やくと。又臣女みやいさと仰べ。室主ハ臣ヘリの。ほすと。よしと  
たと。陽子。後のみ。二律ハ計謀。もづよハ。にまく。の。わく。  
なれば。お魚して。て。う。王。伍相を。核居も。と。あけられ。在の。わく。  
まく。と。きわど。よ。と。く。れと。よ。く。まく。と。お。れ。と。よ。く。  
まく。ハ。三。朝の。う。と。や。う。席。設て。お。う。サ。ま。り。ひ。と。よ。

ちくさかのハ廻るゝ旗ハ楊のまの法事ハあとやきとよじべ、かつ  
らきとよくせしむれ、天ざこゝの播但、の内湯のまよ用、例す、  
我ハ柯のまよの湯れよや、粟島ハ三武庫の浦と様くもと再靈  
ゆきとそぞりひそへとよみの石子同、うきいハ曾向ツガヒふぐるまえ  
い紙とぞみのこハお酒、新年祭祝詞は磐根本根履ツミヤク久殊氏ミキ  
田タケ、鷦チフるよす田、福日都麻ハ播磨印南郡ツカラの  
島シマからも下アシ、北六伊カミロクイ都麻幸荷タマヒコとづけ、浦箕ハシ川海シマツへとさし  
西和シハとりよ田タケ、浦びちをひとスハ通スルハ、うみよりあがつて、あま  
室ムロハ、手ハて浦ハシとすくもううわきハシしはまく、無名すばらう麻マあれ  
島シマ、まよよし、うともとみときハシ、うもうまく、うもうまく、うも  
ぬれものあくとよま、やうもひハシのアヌ、家島神名姓ハシ播磨楫保ハシ

反歌

はま。上岡。先恭紀。衣通姫のすよあのははのははのよも。すと。  
天皇は帝。他人をまかとく。室后恨す。まかとのよも。いよ。四人  
ははのははのよも。いよ。まかとく。告モ。まかとく。御  
室も。まかとく。莫告の下。我ハ茂のほそ。がのう。まかと訓。べ。ア  
反歌

白妙乃。袖解更而。還来武月日平數而。徃而來猿尾  
きのうのうて。さきうへて。かづん。やきしとよみて。ゆきうへ。まかと  
袖紐のほそ。まかとく。上二句ハ。お寝。とえ。まかと  
尾さん。月日といつごろと數へて。ゆきしとよみて。ゆきうへ。ま  
じめと。さうして。まかとく。と。ゆきしとよみて。ゆきうへ。ま  
まかとく。と。ゆきしとよみて。ゆきうへ。まかとく。室も。かのう。  
まかとく。袖解うへて。と。袖ととき。まかとく。男女互よ形え。と。りそといづ

幸伊勢國時當麻麻呂大夫妻作歌一首

吾背子者何處將行已津物隱之山乎今日歟超良武  
わのせこへいつくゆくんおまうかのなづられやまとをうこゆくん

け身事一とよくこそすまく書う

草娘歌一首 草の下香となせへちくさうのつうかへ  
秋田之穂田乃刈婆加香縁相者彼所毛加人之吾乎事將  
成

あきのこのほゞのかりばうがよりあそびそくものひのわとくとなん  
種田ハ刈りどろの田也刈婆加ハ刈計の畠み、橋の刈役もれるとり  
あそびト考むらあそびの考ハ爰清き刈りとよまれハ橋みのまく  
あそびとあそびの考の今す望へとなくんまはよつたり含みとく  
ざむとく人のまことうじのまことうじとあはれきまこと秋の田は

吉川婆可のこぬれ、幸十六<sup>カマ</sup>吉川婆可おうへき、吉ちく刈をひとハ田を  
植るも刈ももぬまし、一はつニはうきよするも、男女おまへうきよもはう  
とかて植て刈てもくとがとうあつハモ一はうのゆのぬハようをあい若び  
ねうのあようづけいて、はうのうハシのせをうするも、とへ一つ田をう  
ふきけく、一はうニの三もうと立て、一もうう植て、め刈く、うきよ、二もうの三  
もうと植て、刈とくとくといつ、がくと、ううと、あうと、ううとくかまく、植  
えやへあべく

志貴皇子御歌一首

大原之此市柴乃何時鹿跡吾念妹爾今夜相有香裳  
わいはくのこのいちばの、いつとわがよいりよおよしあへふのも  
大原ハ大わく、半ニヨモとつよこ雪すくう大原の古うとみよくハ反  
とゑちゑく、いぢはハ櫻葉そいつとよ序のこ、幸十一道のべの立壁

原のいつりとよみも回ト

阿倍女郎歌一首

吾背子之。蓋世流衣之。針目不落。入爾家良之。我情副  
わがせこ。けせも。うもの。もうめ。おうちで。いふくわいわがくろやく。  
古事記那賀祁勢流ナガケセル勢セツとくに。たましのまくふう。けせひ若る。のむを。蓋カバハ  
きどれど。良之の下も。大奈のまう底タマシタマシタ。計カウ。底タマシタマシタ。計カウ。底タマシタマシタ。  
入スルハ。第ハ。入スル。

中臣朝臣東人贈阿倍女郎歌一首 陵紀和祖四年後立位下  
獨宿而絕西紐緒。忌見跡。世武爲便不知哭耳之曾泣  
ひくねて。たまかしもと。ゆーと。せんじゆく。ねのみ。とぞなく  
久きひくと。ゆーと。やーと。よそと。幸十二汗カウジハあれど時  
一ちかくさん。やと。我と。やす。終す傳ヒツヅクの詩シト。ハ。ま。回ト。

阿倍女郎答歌一首

吾以在三相二搓流絲用而附手益物。今曾悔寸  
わがわらも。かつあひふよる。とかうて。づけても。もの。まごとやま

孝德紀三絞之綱ミコトノハラシノタヌキ、出雲風玉記三身之綱打挂豆ミコトノハラシノタヌキ、身ヒタチノカニミツアリの  
つまと川ハラシ、こつむすれるまくづよく絶ハラシ。きよと。様ハラシ廣養云。以手撫系焉淺

大納言兼大將軍大伴卿歌一首 安麻多アマタ御行ミサムて。やまべー  
神樹爾毛。手者觸云乎。打細丹。人妻跡云者。不觸物可聞  
さこのまひ。て。ハ。ふ。ち。よ。を。う。つ。ぐ。よ。じ。づ。ま。と。い。へ。ば。されぬ。もの。うも  
う。つ。く。ハ。キ。ハ。同。じ。ハ。博。の。と。と。ひ。く。よ。う。と。よ。う。と。と。よ。う。  
ま。湯。と。こ。わ。の。経。が。い。そ。ね。を。解。一。尾。の。ち。よ。す。う。と。よ。う。と。と。よ。う。  
室。も。主。神。樹。が。ま。き。て。例。べ。一。ヤ。ネ。キ。と。と。ハ。と。し。よ。う。と。よ。う。と。よ。う。  
は。あ。よ。叶。を。ま。と。い。へ。く。

石川郎女歌一首即佐保大伴大家也 安麻<sup>ミタマ</sup>の妻元

春日野之山邊道平與曾理無通之君我不所見許呂香裳  
かまうのやまべのみちをよろづやくがよしときみづみえのころも  
よろづやくへよべきよれもよきとこ半十四和尔余名利<sup>ハ</sup>者<sup>の</sup>依  
まあさけ初<sup>ハ</sup>交<sup>ハ</sup>え磨本與<sup>ト</sup>れ<sup>ル</sup>、おまかま<sup>ハ</sup>なれ様<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>  
まきこゆれど<sup>ハ</sup>飛<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>

大伴女郎歌一首今城王之母也、今城王後賜大原真人氏也 茂人

ての妻<sup>ミタマ</sup>を室<sup>ミタマ</sup>と云<sup>フ</sup>也

雨障常為公者久堅乃昨夜雨爾將懲鴨

あまはりつねまくみひじかこのきののありふこうふげんのり  
あざくはるはる<sup>ハ</sup>あと出ぬと<sup>リ</sup>ばはいのみすまし雨<sup>ハ</sup>まくらや  
くより、又<sup>ハ</sup>あたるとあれ<sup>ハ</sup>雨障<sup>ト</sup>うそ<sup>ト</sup>あよ<sup>ト</sup>とよ<sup>ん</sup>と<sup>ハ</sup>言<sup>ハ</sup>

後人追和歌一首レ<sup>ハ</sup>和と同<sup>ト</sup>セテ一キナム<sup>ハ</sup>改<sup>ム</sup>

久堅乃雨毛落糠雨乍見於君副而此日令晚

ひさかのありすまめのあまづみまみよ<sup>ハ</sup>して、あひまん  
すまく<sup>ハ</sup>あれ<sup>ハ</sup>まく<sup>リ</sup>え、あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ー<sup>ハ</sup>の

藤原宇合大夫遷任上京時常陸娘子贈歌一首倭紀養

老三年七月常陸國守正五位上藤原朝臣宇合管安房上總下總三国同  
紀馬養<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>同人<sup>ハ</sup>馬養<sup>ハ</sup>うまいひと別<sup>ヘ</sup>されば宇合<sup>ト</sup>あう<sup>ハ</sup>ゆ<sup>ハ</sup>が  
家<sup>ハ</sup>と用<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>ゆ<sup>ハ</sup>、膳太政大臣不比等第三子也と云ゆ

庭立麻手刈干布幕東女乎忘賜名

ふゞまくらあきをかうほ<sup>ト</sup>す<sup>ト</sup>の<sup>ハ</sup>あづまみちをわせられ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>れ  
キハ脚<sup>ハ</sup>のまきとま<sup>ハ</sup>小板内<sup>ハ</sup>の麻矣<sup>ト</sup>前干<sup>ト</sup>あれ<sup>ハ</sup>う<sup>ト</sup>手<sup>ハ</sup>乎<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>の

麻子小舟もすとへるすまくさをきよらひ庭のすよはあくせ、あれをよもやま  
て麻と刈りとのよがれと麻ぐとあをびて干もとくすまつゆとしりト  
そり、まきつゆはまくちよふと、あ女ハシゲアリス

本ノ良

京職大夫藤原大夫賜大伴郎女歌三首 目原下麻呂の家、

之ハ後アツ候紀養老五年六月後四位上藤原朝臣麻呂為左右京大  
夫ヒタキ、別ヒミトキトモト賜ヒキテ年少よきト、通ヒシム

姫嬪等之珠篋有玉櫛乃神家武毛妹爾阿波受有者

をくめらのしままくげたまくのがみきじくんむりふありせあれハ  
神家武古訓ウツクシヒトモヒヨウモ、其仲カニシヒクセト訓ルハ  
人瑞マキレモ御ミシハシベテムシヒトモヒヨウモ、櫛の始ざきありムヒトテ、  
歟モハほりすと、御ミシシラモノモハシカモノ男、アラモシクアヒトツのうえ、  
源氏お後アツ葉上のキコトナガムキトシムはれバモノと櫛を御ミシ

力解四七 十七

好渡人者年母有云乎何時間曾毛吾戀爾来

よくわらじとハシケキ。ありとくといつまくともいのじまくとくにこしよる  
吉平三年正月まですくとくとくといのじまくとくにこしよると今  
月ハけやもは遠もて場程と往復をとひく、能はる人ハ一月も浮  
てゆくと、ちりきくほんとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

燕被奈胡也我下丹雖卧與妹不宿者肌之寒霜  
もいふらよひよひやうてよひよひよひよひよひよひよひよひよひよひよ

古より紀ハモ原神のよひよ、年貯夫復摩なづやうくふくくあくう  
なる金の和やうもとよ、燕ハ茎の深くこのむろやせれども霜ハ  
よひよひ、こやそハ跡へ二の一ハ助脚へ、霜ハ一の脚の内からてやうと  
大伴郎女和歌四首 大伴の下坂上の事と爲する歌

本ノ良

狹穂河乃小石踐渡。夜干玉之。黑馬之來夜者。年爾母有穢  
さちづはのさむれすやうもぬをまの。つるのくよよ。小すすみ  
和名抄細石說文云礫佐ニ札。ゆゑゆゑの語也。あくいの。河内と  
すいせり。もよとびなまくをかく。されうと。まぢき黒のさ  
さのさとわらへ。鳥梅とも梅のうとのふ。さくねだものハトの瘦より  
へかれぞといア

千鳥鳴。佐保乃河瀨之小浪。止時毛無。吾戀爾

ちどりやむくさりのかくせのまじれなす。やむときもす。わづこすくへ  
をす。ふくへすと延り。え原を爾と者。ふゆふとすと。とく  
将来云毛。不來時有乎。不來云乎。将来常者不待。不來云物  
乎。

うんとよよとまわるを。うんとまく。うんとよのを

あんとよよとまわるを。あんとまく。あんとよひ  
て。まく。じよよとまわるを。まく。まく。  
千鳥鳴。佐保乃河門乃。瀨乎廣彌。打橋渡須奈。我來跡念者  
ちどりやむくさりのかくとの。せとひろみ。うちは。わづこくが。ハ  
カ橋。歌よ。ア。おがく。りへ。汝が來と思へ。ぞ

金

佐保河乃。涯之官能。小歷木莫刈鳥。在乍毛。張之來者。立隱

又大伴坂上郎女歌一首

右郎女者佐保大納言卿之女也。初嫁一品穗積皇子。被  
寵無傳。而皇子薨之後。時藤原麻呂大夫娉之郎女焉。郎  
女家於坂上里。仍族氏号曰坂上郎女也。佐保大納言安

麻呂子。郎女。おおねのを。やく。又姑々

さふがそのまのつうのあをなうりそ。あまつもはるよし。

ならかくもがね

旋頭序へつらはるきふとよ、古より記事やまとこのたちもふる。  
（伊知能都加佐）  
ちよ、鳥ハ雪の深、隼車（すゑのこしや）トシテ、あまつもはる  
ちよ、張（は）まよもく春（はる）ハ、ハム辞（ハムシ）、もとちよミ風（みぞ）モテモ遠（とほ）  
リそ、かひ（既）よいア

天皇賜海上女王御歌一首 伎紀卷七正月從四位下とゆ

天室（あめむろ）ハ聖武天皇（セイムカウ）御（ご）下製（しやく）字（じ）と爲（な）せり。  
赤駒（あか駒）之（の）越馬柵（こし）乃（の）緘結師（くわくし）妹情者（めいじや）疑毛奈思（ぎもうない）  
あう（う）よの、こゆ（ゆ）うあせ（あせ）の、ため（ため）ひ（ひ）り、く（く）そ（そ）ん（ん）ハ、う（う）づ（づ）む（む）  
馬柵（馬柵）と（と）ま（ま）と（と）れ（れ）ど、言（こと）も（も）ま（ま）ナ（ナ）宇（ウ）麻勢胡（マセコ）之（の）妻（め）十二（じゆに）

十  
若越（わしづか）尔（おの）シ（ま）せ（せ）一（一）  
ハ（ハ）ト（ト）シ（シ）ト（ト）ヨ（ヨ）  
右今案此歌擬古之作也但以社當便賜斯歌歟

源道別云擬ハ疑の後従ハ時（とき）の信（しん）とて、且當時（とき）トモトノ格（くわく）例（たと）ひ  
疑古之作也、但以當時便（とよ）トモトナムべー、半十八以古人之跡代今日之韋（ま）  
た半十五當所誦詠古歌（うた）を（を）る歌（うた）とて、半役（まつやく）と（と）べー、契沖（きとう）ハ文選擬古  
詩（うた）の（の）と（と）り、も（も）と（と）あ（あ）げ（げ）つ（つ）れ（れ）ど、トモトナムべー、トモトナム例  
エタレバトモトナム

海上女王奉和歌一首 志貴皇子之女也

梓弓（さくのう）凡（まん）列夜音（よのね）之（の）遠音爾（おのの）毛（の）君（く）之（の）御（ご）幸（こう）乎（よ）聞（き）之（の）好（す）毛（の）  
あづ（あづ）ゆ（ゆ）つま（ま）び（び）く（く）よ（よ）の（の）こ（こ）ぼ（ぼ）み（み）す（す）み（み）ゆ（ゆ）き（き）と（と）そ（そ）ど（ど）  
幸（こう）ハ車（くるま）の（の）屋（や）の（の）屋（や）か（か）く（く）ん（ん）み（み）こ（こ）と（と）け（け）べ（べ）、車（くるま）の（の）傳（つ）字（じ）と（と）御（ご）言（ごん）

通身が夜の陣よ法とまくと見リトよ。よみのこやハニツキモ  
のねと男モテまねりて、よきながくちあらのすねに言とキケを  
ようくまく

大伴宿奈麻呂宿禰歌二首

佐保大納言第三之子也

後紀養老三年備後守正五位下管安藝周防二國より入此國より女  
とをセ一ばの事

打日指宮爾行兒辛。真悲見留者苦。聽去者為便無。  
うちじよそくやふゆくことまさかりとどもれぐるやればせだ。  
チロキルハ松詞まうりハ集叶かづきあらすい。いふよひと  
きるそそくはほしよ聞く去とゆるそりやふかれが事とすて聽去とす  
難波方。鹽下之名凝。飽左右二人之見兒辛。吾四乏毛。  
なみはう。おやひのなごとあくまでよじとのそるそる。ヨリヒト

安貴王謡一首并短歌

遠嬢。此間不在者。玉梓之。道辛多遠見。思空。

とはつまのつまあくねばたまほこのふもとたとやみ。やつてくら。

安莫國。嘆虛。不安。物辛。水空往。雲爾毛

やもくやくふがけくそく。やもくぬめぬめひとみもくゆくく。や  
欲成。高飛。鳥爾毛欲成。明日去而於妹言問。為吾。

かむたのくどよ。とりみひう。あきゆきく。りかふこと。ひわく。みよ。  
妹毛事無。為妹。吾毛。事無久。今裳見如副而毛欲得

遠づまとハ古道よハ上室女々ハ上ハ固情の私名と、その  
前の室女とモリムキモトモト、モリモ退れうと想ひる也。  
たゞシテのたゞ後後、モリモ放くもくといつハ、モリのすらあ  
ざく、さまヤドリ御用御用御用御用御用御用御用御用御用  
うもナリモヒツヨリト、モリモヒツヨリモト、モリモヒツヨリ  
本ちの下五ミ一匁落する。此叶ゆき事中より多さればかと  
よきかく者一のじ、モリモヒツヨリモト、モリモヒツヨリ  
シカニヒツヨリ、モリモヒツヨリモト、モリモヒツヨリモト  
安たぐひすがモリモヒツヨリモト、モリモヒツヨリモト

反歌

敷細乃手枕不纏間置而年曾經來不相念者  
走キシムのまくらまつもあひておまくしてとくとくあひて

まきしの地向相の下日のまくらまつあひておまくしてとくとくあ  
音符  
はれきされく佐句行傳、ハシマリハシマリハシマリハシマリハシマリハ  
ひく、行きへ

右安貴王娶因幡八上采女係念極甚愛情尤盛於時勅  
斷不敏之罪退却本鄉焉于是王意悼怛聊作此歌也

門部王戀歌一首

飲宇能海之、塩干乃滷之、序念爾思哉將去、道之永手呼、  
れうのうすのちやひのかゝののかゝひよせりいやのんみちのわきのうを  
和名抄出雲国意宇耶あり、そこの海なきんぢハ序思くほん序之  
永手のてハちよ通ひて、やうて道之、それハ往來を経て復、おまのほ  
マゆる時、道之く文よゆりひせておまて旅むるもやるへ

右門部王仕出雲守時娶部内娘子也、未有幾時既絕往

來累月之後更起愛心仍作此歌贈致娘子

高田女王贈今城王歌六首  
事清甚毛莫言一日太爾君伊之哭者痛寸取物

未の君伊の仔ハラヘキモ助がト一ノ物哀哭ハ傳字無の事トテ、ちをくリ  
リムシタレド、一そ絆うす、拉考ベ

他辭辛繁言痛不相有寸心在如莫思吾背

ひとことを上げももあそざるとき、こうらあるごとなむしわがせ  
あーくまくあらやうはなづままれと、半七人をとまくら  
えふくらば御しこふ人のタマくやう載く

吾背子師遂常云者人事者繁有登毛出而相麻志呼

わづせこーとけぐらきじとこと、主所くあゆく、いとあハキーハ

現世爾波人事繁來生爾毛將相吾背子今不有十方  
このトユハジトモトモト、こんどすよあそんじげど、いすやうくも  
常不止通之君我使不来今者不相跡絕多比奴良思  
つねやまび、かよひきみが、つねひもじ、しまはあそとたゆ、しめ、  
えもぬし、もとをひもと便きまぬハナトアハモヒモヒモ

ひとゆじりくんじよ

神龜元年甲子冬十月幸紀伊國之時為贈從駕人所詠

娘子笠朝臣金村作歌一首并短歌

後紀十年辛卯紀伊

幸のゆゑあ

天皇之行幸乃隨意物部乃八十伴雄興出去之。  
おのれぞのいてもとのまふすのよのとくでやま  
愛夫者天翔哉輕路從玉田次畠大宇  
うつてづまかあまよやかるのえぢづかたまよじまきうねびを  
見管麻裳吉木道爾入立真土山越良武公者黃  
みつあまよおもづふいゝまつまつらやまこゆくんまみかうづ  
葉乃散飛見乍親吾者不念草枕客  
をのぢよみておとくもわすへおとくもくもくとくとくとく  
乎便宜常思乍公將有跡安蘋蘋二破且者難知  
をもうと身のひてきみはあくとあるくわばかつはれども

之加湏我仁默然得不在者吾背子之往乃萬萬將追跡者  
あらむれかくえあむね行つせこぶゆまのまくれをじとは  
千遍雖念手嫋女吾身之有者道守之將問答  
ちくいせとたきめのわのみあればみちかやまとりくと  
乎言將遣為便乎不知踪立而爪衝  
をりひやくもくをくとだもくつまぐく

八十体の男とぞそりと天馬やハ桃洞、時の路ハ東一と改め、そりと  
眼の市よのうのまきがひむき、敵大のゆきをのまくとくとくとく  
音ハ珠う群ふりひづけ、ゆれが波とくねびをくとくゆ、うつて  
山ハ大和と紀伊の擇く、それあまくとまく行もがまつらつて  
くとまつらの跡くとまくとまく、うとおとおとおとて、幸とつと  
とおりて、時居とよりまくとよりまく、あまくとよりまくとよりまく

のゆく一きと、されどもよりう、さううううはまうふ向、かくもん  
あくねで、お詫えながらあく、かくよりゆゆゆく、さうあくわね  
へ、あくハきをかう、道ちゆうは園まとう、向、かくもん、もんとこくもん  
くせんうくをくくよーとくくよーく

反歌

後居而戀乍不有者、木國乃妹背乃山爾。有益物乎  
おくれて、こしつあらむ、半のくふのじせのやう、あくわのと  
半、まつあく、よハ増せりふくわくがくにうすハ

吾背子之跡履求、追去者木乃閑守伊將留鴨

ウ、せこが、あくみかく、おしゆう、半のせきわく、いそめんうし  
本の漢字伊と伊とおぬ育、おハ志豐伊、まくせ、又字かう深傳  
支岐はう、馬仔一なづの伊よ、ト、カクする助能、

二年壬午春三月幸三香原離宮之時得娘子作歌一首  
并短歌 笠朝臣金村 繁武天皇ニ年五月壬申朔しま籠原  
離宮へ幸あり、その原ハ山城國相樂郡ニ、笠朝臣金村の五字時の享  
元の下す音ノ、ち不供ふ遠ノ、は始子ハ紀源の逸女りん  
三香之原、客之屋取爾、珠梓乃、道能去相爾、天雲之。  
みうのはく、たびのやくもふたまほくの、みちのゆすあひよ、あくわく  
外耳見管、言將問、縁乃無者、情耳、咽乍有爾。  
よそのみくつ、こゝりしよのなうれ、こゝろのみ、じせつあるふ。  
天地、神祇辭因而、敷細乃、衣手易而、自妻跡、  
あめのものがくまよせて、土キノ、ころかでかへて、おのつまこ、  
憑有今夜、秋夜之、百夜乃長、有 輿宿鴨  
たのめも、よひあきのよの、ひよの、わく、あく、せぬ、うも

たひのやうは幸の附従者の人の役菴とく、道の行あひハ船ふねも一  
路じゆ多く行合あわーとり、あちやハよそふといもん粉こえ、よそのスコロフハ  
よそみのキとつと墨すみ、こゝよせとハ室むろも事こと依よと因いんこまく、珠  
のよをめりしてときことい、きまぐのハ柏カヤ、れもくへてハ神かみうて  
とりすゆ地じ、自妻じめちのつまと訓くにべ、半牛はんぎゅうに於能豆麻年いとのそとにおき  
とあり、かのものもくハを衣きぬのゆくとつと墨すみ、興おきハもの誤おちこ  
せぬうもハあれうとゆづる。

反歌

天雲之外役見吾妹兒爾心毛身副縁西鬼尾

あまごのよそふくにより、ゆすてこよこうもみよ、ようとくかのを  
ゆきへあまごとまんがくし、えくよすまゝ鬼の字うけいもハ史記齊  
悼惠王世家の舍人恠え之の以ひ為な物而と同あわ之の 憲隱曰姚氏  
云物恠物 又和名柳鬼安之  
岐毛

今夜之早開者の為便乎無三秋百夜乎願鶴鴨  
このようのをやあけらればまべとなみあきのりよもねづまつるかも  
五年戊辰太宰少貳石川足人朝臣遷任餞于筑前國蘆  
城驛家歌三首 後紀和銅四年四月丙午朔壬午授正六位下石川朝臣

足人後五位下さくじんとくとくあさくさく

天地之神毛助與草枕羈行君之至家左右  
あめのものかやもくもくよくこくくらうびゆくまえびのりへいこままで  
大船之念憑師君之去者吾者將憲名直相左右二  
ねほづねのねひひのみハまみのいやハこれハこひんハたハよあすまで  
たハおのハれはハれはハらんなハとハとハらハらハる詞

山跡道之島乃浦廻爾緣浪間無年吾意卷者

やまとものとすれどもわよのもの。あいざなうん。そが、こじまく。  
大和より度ぢらればうりよく、ものうらハ流前志摩郡お摩川  
谷の浦をりすまへし。じまくをハこじんは也。

右三首作者未詳

大伴宿禰三依歌一首 繢紀天平宝字三年五月甲戌朔壬午從  
五位下大伴宿禰佐為仁部少輔

吾君者和氣乎波死常念可毛相夜不相夜二走良武  
わざきみわけをとねと跡へう。あよあぞめよふくゆきぬるじ  
居ハぬとぞ、和事ハ自称曰くと翁ハりれき、室をもして人の石又姓のバ  
ねまよわけとちばるる様もよ、集字よいわけが異うて一種也、  
令集字のつけば人と號してよ称く。あとも思ハ汝ハ左ねと早よやとりとく。  
うは即よみへの御されど、あくまのひよす万ようりかねうかよりとよ

あらびをあよいき和事とくわち  
キハ戯奴ワタリなるをうそもあらむとゆふたと曰く、  
居ハきくとぞ、事のいとんや、君を優和事とへえよとす。汝ふくよはのそ  
かうニシハ紀女郎があめかへ居るをうなれば、號へりて汝とひよくもあらぬ  
と、ちのいふたもあらか。戯奴ワタリのうれあると、翁ハせよまのく  
敵カミの奴のやうにやめて、うるをも、あおぐとくもよ、うるよわけへまく。  
そへとくとよハ我といふまれど、化女うがまくと、うれてわざくかがた  
とわけと號うて、いとと愛て、いとわけとのよま。骨をりふきこそ彼方のく  
かの頬とえて、うるよとす。のせよは、新きよとひつ、わけと  
自持しての骨をもとあれ。ちのほきくべー、二ゆくのゆくへ吉と記す  
葦原中國憲國因山而常夜住とあるゆくとくば引の行すへまれと  
くよゑゆけやうどりて、おとおと傳引く、せらようかみのせやと二引

トミハセサハニシル經行く、そのすきゆまわんハキサセアハスモト珍りを  
リキミハ誤字ナシムベーとをもひて、モークル走ハ去の誤ナシム、モのち乃  
ホリムモハナリムハラのとく

丹生女王贈太宰帥大伴卿歌二首 滌紀天平勝宝二年七月

從四位上丹生女王媛正四位上

天雲乃遠陽乃極遠鷄跡裳情志行者憲流物可聞  
あやぐもの。そきへのきりふ。とくげど。こもろへゆけば。こうするもののも

そきへ祝詞退立極。集事ナシテ。そきゆのをきう。ソリテ。ゆづ。きよハ物の  
もととく。よりけど。遠多れども

古。人乃今食有吉備能酒痛者為便無。貫簀賜年

ソウヘのひとをませ。キビのナリ。やめバサマベナリ。ぬきと。ばくと  
古の人々ハ別艸つとく。とくせても全飲ふ。然もソレをもとす。

万解四上

サセ

ノ誤  
痛・病

縣ヲ頼  
ニ誤

モアス

為君釀之待酒安野爾獨哉將飲友無二思手

きみづかみ一ももむけ。やものねぶひくものすん。とく。だらかく

太宰帥大伴卿贈大貳丹比縣守卿遷任民部卿歌一首  
後紀和銅三年三月癸卯從五位下多治比真人縣守為官内卿一  
モアス

崇神紀もやかのゆーの介跡之御松  
酒とつくるとかひとし、寒十  
六よ、味酒と水を醸す事侍ーよりい、古事記は其御祖息長帝日壹命醸待酒以  
獻トよく、ちへ人を給え酒をよ醸して待酒といつて、やもの等ハ筑前夜  
須御之、神功紀元年層増岐野ニ到まつて、熊鷺とねひとあつして、我心安  
しとのてまひとあつて安ヒリテ君主ノモナリ、凡てがる醸くらむれ竹とあ  
きれハねやのまんと

賀茂女王贈大伴宿禰三依歌一首

孝子記卷之三

筑紫船未毛不來者豫荒振公乎見之悲左

つづくやうに、まくらのまくらが一めあつてゐるをうるの力やうと  
おもひこねふとよそいはねはまえおこしやうへゆきとほりも荒備みだ  
そとよそくわく、おもひこねはまくらがまくらとよそくわく

土師宿補水通從筑紫上京海路作歌二首

一盤破。神之社雨。我掛師幣者。將賜妹雨不相國。  
らるや。よるかみのや。うよ。わ。かく。ぬさ。が。け。  
上の手と今を。くまよ。海の。あはれ。やうな。うて。日  
よ。らむ。や。も。し。た。も。ん。ハ。幣。と。く。れ。れ。と。よ。そ。

事毛無。生來之物乎。老太美爾。如此憲于毛五口者遇流香聞  
ことなくす。あまうものとおいたみよがるこひよぢくあつゝも

おいかずニハ年改の次ニ同ドくやリ。老引と云、言を云、生ハ在の誤也トア。  
古訓トアモルトトアレバ、まの怪引るやムク、何モテテシイモテト  
モリツミ、又生末タバあれトシ列、トヨレトヨモトツムトシ、  
クレドモハヨツビ、次ノ即女ノキヨナムモスリトシ、ババ時即女  
ち寧ヨリテモテモ百代の五ツナムベ、チアバ此ノ即女ノキハ  
チカクナム

孤悲死牟。後者何為牟。生日之。為社妹乎。欲見為禮  
シヒチナムのちハナモセん。イケモノの。アモテ、イモモミヤウモレ  
え度キ後ヒ時モル

不念乎思常云者。大野有三笠杜之。神思知三  
ちモリムトサシトシ、おほぬなる。シのとのりの。ガミー士モラシ  
和名抄筑前大野郡々、神功紀熊鷦と輦人トノタヌリモテ、帝

笠風す墮すかモ五と御等々アヘン、ホーのトハ加多、岁十二  
もとモタマトシモモモ候ムモテの。アモセシトモ  
無暇人之眉根乎。徒令搔乍。不相妹可聞  
アモアモヒトマムエを。アモシカレモアモアモ  
人モアモレハ眉のかゆきトシ候ム。集事ふまト、辛ナニシ。レのミ  
テアモキ角折と候ムカレモアモアモ

大伴坂上郎女歌二首

黒髮ニ白髮交至者如是有憲庭未相爾  
くろみふあらうみまアヤ。おゆるまでがもこひよハ、まくわめハキヒ  
島女にまくわも程ハ、わくどとるば、うきよこうすかく、白多美  
たゞくよそくわく。次ノキヨムキモスミヨ達一ノハアモギ、辛ナセラ  
ゆきの之路斐麻江ホトキレバ、キラミト御ハヨリ

山菅乃實不成事辛吾爾所依言禮師君者與孰可宿良年

やまとじけのみやうぬとぞれよせいしりきみ、これくわん

山菅ハ和名抄變川冬

夜麻

頃今

うえとものとす中菅のよきうやうよ

をうこは只すりそんのよもてがくめとしのまでからむ所  
依りよせとよしと、もかくゆゑとくまくまく人よされ馬傳

浦とまこととゆく

### 賀茂女王歌一首

大伴乃見津跡者不云赤根指照有月夜爾直相在登聞  
おひのみつとハソレ、あうねやしてれつくよれだよあへどり  
おほのねの松角さうとよハ猶波の御伴ぢくとやいし川まで  
えつましよりひだりとく、おねぎ一枝角

### 太宰大監大伴宿禰百代等贈驛使歌二首

草枕羈行君辛愛見副而曾来四鹿乃演邊亭  
くまくまくたひゆくまくとくらひくまくとくらひくまく  
きの後ハ筑あくとくじてくまく遠く送をまわるとよ

### 右一首大監大伴宿禰百代

周防在磐國山辛將超日者手向好爲與荒其道

あはうわるよく小やまとこくひなむけよくせよあらまのち

和名抄周防改柯新石固

### 右一首少典山口忌寸若麻呂

以寔天平二年庚午夏六月帥大伴卿忽生瘡脚疾苦枕  
席因此馳驛上奏望請庶弟稻公姪胡麻呂欲語遺言者  
勅右兵庫助大伴宿禰百代治部少丞大伴宿禰胡麻呂  
兩人給驛發遣令耆卿病而逐數旬幸得平復于時稻公

療ハ愈  
人誤カ

等以病既療發府上京於是大監大伴宿禰百代少典山口忌寸若麻呂及卿男家持等相送驛使共到夷守驛家聊飲悲別乃作此歌

太宰帥大伴卿被任大納言臨入京之時府官人等餞卿筑前國蘆城驛家歌四首 三年十月大納言少佐  
三墳廻之荒磯爾緣五百重浪立毛居毛我念流吉美  
みをきのあとうよよひる、かやみぞもひりゆてもわづくるまく  
こときむがくまくち、和名抄汀水際平砂也 和名三巴ハ浦西多との  
どのかへよはまてくまくとくまく

右一首筑前掾門部連石是

辛人之衣染云紫之情爾染而所念鴨  
かうびよのとももすむとよむきもまのくろよまくしむゆるから

率之塗  
二侯

大陸ハ字子淵とくそん序のく、辛ハ傳字まく韓く、又ハ辛ハ渕の傳ふく  
よき人ふ、字もハ辛ハ字万ニ字もといアリ

山跡邊君之立日乃近付者野立鹿毛動而曾鳴  
やまくまみづくひのちづけばぬもつちのじよとみうごがなく  
大和の方へ、席うらしろおもくくらむりく車近の下付の  
事と役せり、元度やよよく御へ

右二首大典麻田連陽春 俗名やまとよまんの後紀神龜元年五

月夜吉河音清之率此間行毛不去毛遊而將歸  
つよし、かはのときよし、いそくふゆくもゆるすあすびてゆのれ  
れと、仲ともそ、不そ、府の友人といつて、ゆるとすとゆつれといひ

右一首防人佑大伴四綱

佑とをが佑と舊れア

太宰帥大伴卿上京之後沙彌滿誓賜卿歌二首 賜天慶

ト贈ス

真十鏡見不飽君爾所贈哉且夕爾左備尔將居

まうかみとあるのゆきよおくれてやあじゆべふまびつをくらん  
勝のすは傳ふく後すく又場面のこまく後わすもまべーいた備  
ミハラシゲくとくへ

野干玉之黒髮變白髮手裳痛憲庭相時有來

ゆゑすまのくろみをくろがくすくじまことひふせすときあくすり  
あす大は汲と郎女のくろ葉玉を後すくまくすりのゆく、傳てし  
山加

男女の衣へ名はえとば引ハ再を絶えと教ひまきハ痛くゆるき三

大納言大伴卿和歌二首

此間在而筑紫也何處白雲乃棚引山之方西有良思  
こくふあきとてづくやいづくとももれかなびくやまのかくにりあるく  
事も伴うて後すくまくまくはさめく不知ちとえうけまく能く  
草香江之入江ニ求食蘆鶴乃痛多豆多頭思友無二指天  
くまくのくのいもくすあまく河口づのあまくづくしてとたなすて  
事もに河内をりくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
まくとじくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
なまづくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

太宰帥大伴卿上京之後筑後守葛井連大成悲歎作歌

一首 侯紀神龜五年五月正六位上舊升連大成授外後立位下、三介

從今者城山道者不樂牟吾將通常念之物乎

いまより少子のやまみちハシビクんやのカよもんとれりひきのを

牛ハ大伴坂上郎女今とかくお体のゆゑに半生を代りすこのほのゆ

えどもとお寢處とお施度へ朝す道のゆゑとぞ、多かさんと云ふ、

呻でのりへおもむきとぞ

大納言大伴卿新袍贈攝津大夫高安王歌一首 狩の字

一幸卿の下する此は衣服の製改せず又新しく作らるるとぞ。

吾衣人莫著曾網引為難波壯士乃半爾者雖觸

わがころもひとあれさせそあひきゆるはととこのてふはすも  
きのをれらればあかのくもみれひをすいそくとしゆか  
もとハ半ウのがま男まぐべてそれがもよなもともとひて、  
もとハ半ウのまよなもととおゆかうす、あさればとゆだくじて、おも

大伴宿禰三依悲別歌一首

天地與共久住波牟等念而有師家之庭羽裳

あるつもとせりひくもまげんとねりひとあひていへのみはる  
大寧のほ中の尼の庭とて高の付ともるうはもハ古き集小ぐきの  
墨のやうよゆとあれとわのわけのありすすもよどりよじと、  
文よもゆて教く詞へおニモゆくちよとんとおひつはへまつア  
ケシヒウトリテ御く

金明軍與大伴宿禰家持歌二首 元明軍者大納言卿之資人也  
奉見而未時太爾不更者如年月所念君

みまづて、まこときだよかくねどつまのどおひゆき

かくうねぞハ俗のかくぬやうと

足利乃山爾生有嘗根乃懃見卷欲君可聞

あひきのやまにおひくもきのねのねりこうをまく引きまみり  
をハねむろとひくと序のと

大伴坂上家之大娘報贈大伴宿補家持歌四首

生而有者見卷毛不知何如毛將死與妹常夢所見鶴  
いきくあらばみまくもさう小なり。おゆくよいかといきよみそつ  
奔冲云々とておまくされがみよなびくべ又あくじもあられ  
ぬをだまくまうえよもの入までかくあるくあるくよきはこむかんとえ  
えつとんとよりく

丈夫毛如此憲家流辛幼婦之憲情爾比有目八方

まむらをしかくじたるをたるものよもよもへらめや

月草之徒安久念可母我念人之事毛告不來

つまくまのうつろひやうりやうりうわづまよひとのことくつけこぬ  
つきよハ集井野野頬草ともうきく濃縫きのねまくらもぐつゆくと  
うすのくちくもくくきくもくねづればくくつまくくふくもくのねまくさの  
なればくのくせかくくとやまきもくねづればくくつまくくふくもくのねまくさの  
くくとくほくよくくぬれ、事ハ傳くまくく言く

春日山朝立雲之不居日無見卷之欲寸君毛有鴨  
かくどやまわきくもくのあねひなくふくのけきもくすよわから  
すハ主居せよあれがくいつまくわぬ日をがくとくと里くとす

大伴坂上郎女歌一首

出而將去時之波將有辛故妻憲為乍立而可去哉

いざかのとまへあんをこゑてはひつゝもていねへや  
捨てはよのよや、おでりすとあくらへ、これとゆまつりつ  
とえりべきよハあくらへ

大伴宿禰稻公贈田村大娘歌一首

元大伴宿奈麻呂卿之女也

續紀天平十二年十二月從立位下大伴宿禰稻君為因幡守  
上主<sup>ノ</sup>仲大伴卿病時驛使<sup>ノ</sup>將<sup>ノ</sup>の左<sup>ノ</sup>廢弟稻公<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>不<sup>ノ</sup>  
不相見者不憲有益乎妹乎見而本名如此耳憲者奈何將  
爲

あひそせはとしきうまと、わとそくがくのみ、しがいふせん  
まくせはかくもとく、さをひまをくりとく

右一首姉坂上郎女作 首ハ云のほきく一  
笠女郎贈大伴宿禰家持歌廿四首

西門具

吾形見見管之努波世荒珠年之緒長吾毛將思

わがみつとめがせあらまのとせをなづくわれもむはむ

タツネあひきとく年の後ハとの後棄の後の後すくく年も

候くわゆどくく供のうとかづなん

白鳥能飛羽山松之待乍曾吾戀度此月比辛

ちらよのとばやまのまちつちわざしわこのつまごろを  
をとくの林道じよひ大和のゆきそれ山のを相ふあつち、おひまち

アヒシム序の

衣手辛打廻乃里爾有吾辛不知曾人者待跡不來家畠

ころやどもちのまくあひこれとおもむけいすまくどくを

衣と杖。日も暮れまへ半十一時。さうのち廻前。そぞらうとらへ  
をば大わの林うちのをととるはつれま。まともあ四里の所ハ折の  
道もくとくじまへ門へ。まくらしはほとおまれば。むるまよひ  
進きよへ方の子ハ訓と遇ふ。傳よすまうをえむなれまくへ。十一の  
木の木と前さ由。カハわの傳よく。とくとじくまちまくへ。場所よハ山  
シトハモ打あたへ

荒玉年之經去者。今師波登勸與吾背子。吾名告為莫  
あらまとのへゆば。まはといめより。せこころのなのうとれ  
今ハとくハ歎あひ。お別れまえきよぬるを。ちろとくよ  
ちろとくすれと。

吾念辛人爾令知哉。玉匣。開阿氣津跡。夢西所見

わのむかしとひとふきらせや。たまくげ。じまきあけつと。いめすみう

きらせや。きらせば。小や。下。細刀。かく。うそ。ゆめ。よ。く。の。き。が  
こ。も。あ。く。る。が。く。よ。る。く。ち。の。り。ひ。う。も。ー。か。る。ー  
闇夜雨。鳴奈流鶴之外耳。聞不可。将有相跡羽奈之雨

く。き。よ。く。が。く。な。く。の。よ。う。の。み。よ。き。つ。う。あ。く。あ。く。と。ハ。ち。う。に

あ。の。み。よ。う。く。あ。く。よ。く。へ。う。

君爾憲痛毛為便無見。檣山之小松下雨立嘆鶴

きみよ。こ。ひ。く。く。ち。べ。な。く。や。ま。の。こ。ま。う。う。か。く。も。な。け。き。つ

鷺とく。か。略。な。れ。一。わ。よ。伝。く。み。じ。く。み。ハ。せ。ん。う。く。な。く。ふ。く。

吾屋戸之暮陰草乃白露之消蟹本名所念鶴

わ。よ。ど。の。ゆ。つ。の。げ。ど。き。の。き。う。ゆ。の。け。ぬ。う。な。れ。お。え。う。ゆ。る。う。ひ  
タ。ほ。ま。ハ。ま。の。う。ま。か。く。小。庭。子。山。淡。ま。と。い。よ。由。く。庭。の。名。の

吾命之。將全幸限。忘目八。彌日異者。念益十方。

のもの。まゝ、な、も、か、わ、や、れ、め、や、い、や、ひ、よ、け、ふ、ハ、お、す、ひ、ま、レ、ど、も、  
将、全、幸、ひ、あ、き、け、ん、と、よ、み、く、ま、ま、き、て、あ、く、ん、の、と、と、も、そ、れ、え、

八百日生。賓之眇毛。吾憲一。豈不益欺。與島守

やほりゆくはまのまことわのこひかあはまくじのなまつたか  
やかうりはまくの日暮とあるまじとよまくかぎりかく遠く度とよ  
まく、ぬちハキモシもきといふ教へもんのまことによきてゆ

宇都蟬之人目卒繁見石走間近君爾怠度可間

うつとくの、いもーのハ施詞

卷之三

憲爾毛曾人者死為水瀨河下後吾瘦月日異  
こひうねじとハ止アモレモヤセラはシゆれやもアキヨシムコト  
キモトハアラカノエモアムンと、下ゆハ底ト向く、人れを  
ヨリのキ袖ミ、水ちせ川、金十、水、キ川ス水、キ瀬川と、水の不  
無の事、あら、の、先ハセテ、モ、リの、水の、がの、ア、モ、マ、ク、  
小物の、川と、ソ、ル、か、ト、後、ソ、ル、序、ト、セ、ル

朝霧之櫛相見之人故爾命可死意渡鴨

伊勢海之議毛動爾。因流浪。恐人爾。急渡鴨

かのうへんをひきとく。又はかのうへんをひきとく。又はかのうへんをひきとく。

後情毛。吾者不念寸。山河毛。隔莫國。如是意常羽。

ミテシム。あハカミ。さわき。やまのは。へど。らがくよ。かくこいひとは  
ハナハ。おハ。もは。ざうきと云ふ。あハカミ。さわき。ソヒテ。反。おひじ。や  
ト。ソシム。やれ。次。よ。ゆ。あハカミ。ざうき。ス。エ。モ。カ。よ。ゆ。らん。と。ハ  
ト。ソシム。合。を。タ。モ。ベ。、つ。ド。レ。カ。ハ。ヘ。ド。ラ。ム。よ。こ。か。は。の。か。ハ。ほ。う。  
よ。し。ド。一。ゆ。河。と。二。つ。と。よ。ぞ。

暮去者。物念益。見之人乃。言問為形。面景為而。

ゆ。され。ハ。ガ。の。か。い。ま。ま。る。み。ト。ひ。の。こ。く。ハ。も。ヤ。ま。い。も。う。げ。す。て  
ミ。キ。モ。ハ。あ。ソ。ニ。宣。モ。ハ。こ。く。ふ。も。う。、と。ト。モ。ハ。と。い。づ。ミ  
念。西。死。為。物。爾。有。麻。世。波。辛。遍。曾。吾。者。死。寔。益。  
お。り。す。、と。小。ち。る。え。の。ふ。あ。ら。ま。せ。ハ。ち。く。そ。び。ざ。わ。れ。全。ふ。か。く。ら。す。  
土。す。ま。く。死。の。ま。と。さ。す。な。れ。過。去。と。ゆ。め。る。と。

劍太刀。身爾取副常。夢見津。何如之。怪曾毛。君爾相為  
つ。る。き。づ。も。ち。み。よ。と。く。と。く。と。い。め。ゆ。み。つ。や。る。の。き。ざ。ざ。ざ。ざ。ざ。ざ。ざ。ざ。ざ。  
御。う。ら。く。ハ。相。泊。非。也。さ。の。ハ。祥。の。字。け。こ。そ。ハ。何。の。き。づ。く。と。の。い。と。役。て。あ。る。  
き。ん。と。う。な。ん。と。自。し。る。若。と。刀。ハ。男。の。具。な。れ。ハ。され。と。男。よ。ほ。  
る。ハ。男。よ。ま。ん。し。ま。く。と。う。べ。ー

天地之。神理。無者社。吾念君爾。不相死為目。

あ。を。す。の。が。み。と。こ。と。わ。を。か。く。ば。と。く。わ。づ。カ。ア。レ。み。ふ。あ。を。む。と。ま。せ。め  
銅。明。紀。天。神。地。祇。共。證。之。と。達。と。こ。と。う。と。か。め。と。あ。と。て。こ。と。う。  
た。と。ハ。祈。ち。よ。一。サ。く。リ。と。う。だ。ー

吾毛念人毛莫毛。多奈和丹浦吹風之。止時無有。

ヨ。ル。お。カ。ア。ジ。ト。ナ。ウ。ト。レ。お。は。や。よ。や。う。う。う。カ。セ。の。や。じ。ま。れ

お。ほ。ま。く。の。泊。ゆ。つ。て。半。十。あ。ま。く。と。ま。く。リ。泊。と。モ。か。く。ま。く。ま。く。

まことうふ語るもまべし、言もハ且ホ祁丹の傳すと、おきよけよる  
らんといつて、打考へし

皆人乎宿興殿金者打禮杼君乎之念者寐不勝鳴  
みやくとをねよとのかねはうつなれどきみやくとバ、いねうてぬり  
ねうの隣ハ支の隣、天武紀人定トアシキ、支の隣は人ノナテアズリルバ  
あひて、ソニギタウモハソナウムシキナシ、ソナウトトリツ、ソナウトメ  
トリツ、ソソナウタリソイツミトク、ハジヨシモリの、打の下太云のま  
萬々萬々と、全ハ信室也

不相念人乎思者大寺之餓鬼之後爾額衝如

あひすりめいとをねゆハおうてもの、がきのちよへぬうづづうこと  
体よむうじくれおせハミアムと、像界のちよへはおせんを差  
映大にまくと、さうな人と見てまく、半千六まくの女がきまくとさくう

トあはれ、苦ハ堅貪の悪旅とえさんるよ、伊藍のくすの餓鬼と作  
フおなむわなむベーと妻沖ハラ  
後情毛我者不念寸又更五故郷爾將還來者  
トうゆあははきゆまくまくにわのふるよと、かへりこじとハ  
妻沖ミミキアキナヤムヒのとねうよ、ミヌトナカトナカト  
トナカトナカト、おとの里のあらまくぬアムンヒナカトナカト  
トナカトベーと、ちよつけたひのすはだまお前後丈基勝トあれば、そ  
女の身ア行らう、えあまく遠く行かて後よみくおれむたまべ  
辺有者雖不見在辛彌遠君之伊座者有不勝自  
ちうあれば、おどもあると、やとやくきみういます、があざがてまし  
ふねざわまと、ヤキトアムと、あざがてましもハ至かねんと  
もハ世解、向ハ日の傍を

右二首相別後更來贈

大伴宿禰家持和歌二首

今更妹爾將相ハ跡念可聞幾許吾曾齎悒將有  
いまさらん。すかあはれとあへてもくたれどいね。おほーーからむ  
あひやーあそんやあーとよきよきほく。せうもひせうもひのことハ  
トエスあくびうきがくをすふ。うそこばくまのながつたまのまきと云  
がくべーそはあれほれり二そのまくと

中中者黙毛有益呼何為跡杳相見始兼不遂等

わゆふ。えぞうあらまき。たまうとうあらひみぞあけ。さびしきまくふ  
者一車。蒸よれ。等一車爾。かく。おねづか。がく。わく。すよ  
田ド。まよあく。ものと。何よあく。そりん。も。と。か。ま。う。み。ハ。と。げ。ま  
ふく。むく。も。て。ほの。まく。まく。

著ハ  
ノ誤等  
ハ誤等

山口女王贈大伴宿禰家持歌五首

物念跡人爾不見常奈麻強常念弊利在曾金津流  
モノヤアヒシカミテ。ヤモドヒヨツネホサヘ。アヤトシカネツ  
不相念人守也本名白細之袖瀆左右二哭耳四泣裳  
アヒモモヒキヤウタナ。ホラクツのミヒシマドヨハのミアーナのモ  
ナミハナムリ。ソノハノモヤの日と信づ

五呑背子者不相念跡裳敷細乃君之枕者夢爾見乞

わがセコハアシカミテ。キミツのキミ。ワガミハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。  
セムテ枕ナム。ノ。着ス。エヌ。と。新。エ。唐。ナ。美。の。下。尔。と。所。化  
劍太刀名惜雲五口者無君爾不相而年之經去禮者  
つま。も。の。を。け。く。れ。な。き。よ。あ。じ。う。て。ど。の。く。れ。を

つるぎどもう松翁、さき十二本へ回りて、未だほの月のまゝすとす

從蘆邊滿來鹽乃彌益荷念歟君之忘金鶴

あべあみらむ志のいやすにれわくうまみづくわねつむ  
をひやまくとそんすの、ナリハラバうもととまわからずより  
とまわづし、とりよへば

大神女郎贈大伴宿禰家持歌一首

狹夜中爾友喚半鳥物念跡和備居時二鳴乍本名

さよあつのふとよみちどきとのりととひするときよなまくわくとれ

大伴坂上郎女怨恨歌一首并短歌

麻子の妻とあくニ女と生きてとゆき三祭神事もくとせす、

此高き麻子よつてくまくあらひのわやく、もとよもやう

山車一観大日御前卷五首

押照難波乃管之根毛許呂爾君之間四字年深長  
おてもやすのまげのわきころよまきさうてどりよくばく  
四玄者真十鏡磨師情乎縦手師其日之極浪之共  
しいへばまきがみどきくろとゆきくろとゆきのひのきへいだえのひ  
靡珠藻乃云云意者不持大船乃憑有時舟  
なびくたまのがせりてくろとゆきおほよのとめときふ  
千磐破神哉將離空蟬乃人歟禁良武通為君毛  
ちもやるかみやまげんうつせみのひとみよんかよせらきす  
不來座王梓之使母不所見成奴禮婆痛毛為便無三  
きまもくじたよづみのつうじみくじたよづればづくじなま  
夜干玉乃夜者須我良爾赤羅引日母至闇雖嘆  
ぬばくまのよろへもぐづふあくひくひくとまくでなげどり

釋迦  
今  
佛  
伽

知師乎無三雖念田付乎自二幼婦常言雲知久  
あすとなみわづかにたづきとへたまやめといそくしよく  
手小童之哭耳泣管徘徊君之使乎待八兼手六  
たまらはのねのみをまつてうわほりまみづつうひとまちやかねん

おてての枝荷苦の根と豆人糸の四の下手ハ手の邊と室もひづりきこ  
うのままで、年はくへ度ニ度ノさき堤ハ車渡カミタスをし、ま  
むとつよハ東へちく免シムトシガモ、とぎーんとゆーてハ、下を  
同語也、まくようがくまくもと、ゆうびんもと人よがくもとと  
集申候シテりてゆくまどわらまセバかむきよハあくさくまどとと  
まのるの極ハシマ、まよよアーテのみ、うそりとびや、もくハ苦クみのたけま  
よよも、かよくふらかすてうへ、ほのまよもくなまハナヒく薄  
のまよもかよくふらかすてうへ、ほのまよもくなまハナヒく薄

反歌

物の外けよやうやうと、敵のまへえがくをよくちアハラシハ人の  
まへてんやん、あくべに機知、いそやめへよ弱女もく、女のモカトモ、まく、  
ナムトヨ、いもきもくへいさんせきく、ナシヨハ、を掌よのまよせのま  
とまくかとらと裏り、あれと始ね、ろよソシマヤルを、一ももよロアヒテ  
キと男ともいふも、彼モアキモ東あれ、せんもく、なぐく、トミシヒ  
ヨリ教け、シモカヒナツクアシ、ミカトモクモク彼のまよとのや  
待かねんと

あくやまく、たゞえよしもくとしもくのまでもくとしもく

西海道節度使判官佐伯宿禰東人妻贈夫君歌一首

後紀天平四年八月丁酉ミク授外從五位下トトロヒ

無間意爾可有牟草枕客有公之夢爾之所見

あいぶゆゑ、うれみあわしもく、ゆくよひむかひなるきよがいめうりゆ。

夫うきすればさりあんまつへえるハレリ

佐伯宿禰東人和歌一首

草枕客爾久成宿者汝辛社念莫意吾妹

くふくとく、ひよひよ、かづかね、なこひそわまう

なとこうしまとぞくに、およひふくしゆへしゆるうれと慶ひ。

池邊王宴誦歌一首

後紀神龜四年正月無位池邊王授從五位下

大友皇子之孫葛野王之子陵海真人三船之父也

松之葉爾月者由移去黃葉乃過哉君之不相夜多焉  
まみふづきはゆつとめ、すみぢものすまわやまえが、あそよおわ  
うつとゆつともよはゆくりとびのけのけの、とぬやゑがみハ思ふあ  
ぬ物のあす、るるよとも、上ハ枝と待ししむかく、さうすのまく  
きとひづ、鳥とく、鳥と漫るえ廣をよろしむ一改つ

天皇恩酒人サカニ女王御製歌一首

女皇皆穗積皇子之孫女也

至武天皇、女モハ先に天皇の宮女、後紀宝龜元年十一月己未朔甲子證  
從四位下酒人内親王三品トトロヒ

道相而咲之柄爾零雪乃消者清香ニ意云吾妹  
みち小あひく、ぬま、からにす、ゆきのけとばくぬ、ふくみとよわきも  
うぬふはねうり、みど、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく  
おまくまく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく

かげくまつる

高安王裹射贈娘子歌一首

元高安王者後賜姓大原真人氏

後紀天平十一年四月甲子從四位上高安王ミクニ賜大原真人之姓トヨウ

奥幣往邊去伊麻夜爲妹吾渢有藻卧東射

おきごゆきへよゆきいまやいよぎめわがちやむれよーつづれ

今やハナムシ草すつゝ納ハ屋上砂イシダ一つりの新ハタケリマツキ、屋上

地傳上石附イシタタとソ朝アサヒシホハ珠スジがるすく海シマヨリ、草ハタケとリマツキ、室モ

ハ伊麻夜といひやと河カワ勤ハラフの事モノヤマシモテ、行考ハタチヘ

八代女王獻 天皇歌一首

後紀天平宝字二年十二月丙午殿  
從四位下矢代女王位記以被幸先帝而改志トモシ

君爾因言之繁辛古鄉之明日香乃河爾寶身爲爾去  
キミヨアシコの土ヒメギキをよるまのあらうれがくふ。文をまつふゆく

一尾云龍田超三津之濱邊爾寶身四二由久

人のねみりよしのちけよよりてテニキシテ、ひきびハ改ハシメ

娘子報贈佐伯宿禰赤麻呂歌一首

娘子詩シキトナレモ報ハ

吾手本將卷跡念牟大夫者憇水定白髮生二有

わざり下シタトマカんとすむしマカんとをいだみマカんとあづマカんとすみマカん

まマん枕マカんとくとマカんとまマカんとすみマカんとあづマカんとすみマカんと

まマんやの匂マカんとへ御マカんといつとほくめりべーとひづマカんとまマカんと

まマん枕マカんとまマカんとすみマカんとあづマカんとすみマカんと

佐伯宿禰赤麻呂和謌一首

白髮生流事者不念憇水者鹿養藻闢二毛求而將行

まマんのわすれとマカんとすみマカんとすみマカんとすみマカんとすみマカんと

とのすとえてよきよ、がよりうーとくうがよくよ、かよくよ、まゆ  
ときくひかくりてあくとく

大伴四綱宴席歌一首

奈何鹿使之来流君乎社左右裳待難為禮

たすととづのしのまつる。そみとしがすかくふわまもがすじれ  
ばあくまくめんへはうる。ほきとよみうのほとくようせん  
ちとくまくとく

佐伯宿禰赤麻呂歌一首

初花之可散物乎人事乃繁爾因而止息比者鴨

もつれのひくべきものとひとごのとをさよやう。よどむことろす  
よそのかよきのよそよし、あらんとゆくべど、へぬ様ゑくと。され  
ふえまくはよよをとよまくとよまく

湯原王贈娘子歌二首

志貴皇子之子也

宇波弊無物可聞人者然許遠家路乎令還念者

うはなき。かのそいと、おのはう。とよきくちと、かくちれと、ば

オトニ得羽重無

ハナキ

妹ともうひといつ、山をきくへりをくえぞりの風ふき

よがストアム。どうえ、葉仲を素遣く、原氏ぬづうよた。ういへ計のかく

ふく、うアムをくのりくこころえくうく、スうくぐのやう、  
けハおのづくくもくとけづきわくとく

れやくうもくがくまくうもく、そやーあくとくのやうけむうと

よそよそ、室もくはけは俗すあ、ううきとりくとく、やうのね

きくよりへかきといふうハビクノハシキのねくとく、用とよせうゆい  
て、ゆくようハハ上重とく、がくとくはくとく、あはくとくへいとく

けとくがくとく、ハハ人ハ吉うけのぬくとくれい

目二破見而手二破不所取月内之楓如妹乎奈何青

め小ハみくにてんハとられぬ。きのうもの。かつらのじよ。いまと、いづせん

和名抄々兼名苑月中冇河、河上有桂、高五百丈と云。ごくもつよ

いづまくみゆ、和名抄楓 平加 桂 女加 豆良桂 豆良 と云々と一圓文

娘子報贈歌二首

幾許思異目鴨敷細之枕片去夢所見來之

いのぞうとれしけめかもとすうふへのまくらかゝる。いのすみをこ  
妻五ゆくとすちくみのね伊か婆か利 イカバカリ あそんとよられべ幾許と  
うくよりやあの二そはまうけひうらと肉すくばうハ改よきてほ  
卷立麻久良佑良愛提 ラサラズ いりすくとえんとゆへば、うし序ハ不の字  
ゆく、あくまでもうてなぐんとあられま、室もま十ハ夜床加多古里  
とまく左ハ左の邊まくまの化すありとハ床と序遷てゆる、さてけおり湯

宝物のく

湯原王亦贈歌二首

草枕客者嬬者雖率有匣内之珠社所念

くもやくとひ小ハいもハあそいどく。くげのうちひよるとこそあひへ  
抜ぬきとひまくまくまくつれど、匣中のものやくそでぬよとく、或人云々のゆゑ  
くもやくとほべ、率てまであるべくが、匣の中のゆゑにまきまくへ

もうぐーとリツと宣モリテ

余衣形見爾奉布細之枕不離卷而左宿座

わがころがくみるまくすて。まゆうのまくらがくさび。まよひてやくかせ  
まくら、遠のまとよもく。かくやくせは離れどく。スルとよもくとくじ  
をく。まくらハ寝くべきハ夢後、そテ旅終ヤくらぬく。ゆふれく  
ハよみのまくらス或人のほのむくぢく。ばぬよハもよもくありく。おとがるく  
やれもくとく

娘子復報贈歌一首

吾背子之形見之衣。嬬問爾。余身者不離事不問友

わうせこがくみのころもつやくひふり。まくらげ。ことじとは。ぞとも  
鳴とよはすとつまくらとく。まくらのねハねりとく。せがせ  
くまくらとく

湯原王亦贈歌一首

直一夜隔之可良爾。荒玉乃月歟。經去跡心遮  
たひよへとく。あくま。まきのへぬると。なまくゆるかも  
卷十二。うせみのきのこ。とせり。せり。とせり。心遮焉。これとく。う  
なぎると。川。遠ハ遠崩の。とすく。り。とく。とく。とく。  
まくらへなれば。遮のまの上。不のまくま。へふ。やく。とく。まくら。とく。  
けいへく。きうれど。わざと。り。泡た。古丘の。ごく。おゆく。ゆく。とく。  
べきあへ道引所思義。きどく。がくら。遮ニ。まよ。浮。る。らん。とく。

娘子復報贈歌一首

吾背子我如是憲禮許曾。夜干玉能夢所見管。寐不所宿家  
禮  
わうせこがくまくらとく。めよもく。じねら。ス。ビ。ク

あれハニミのバトタタタツアラスモシハカタガリタタタタ

湯原王亦贈歌一首

波之家也思不遠里乎雲居爾也意管將居月毛不經國  
はけやトマモリナシトモトカムサヤヒシツモシツキセヘトシクシ  
ミタヤハモトクモトク後月ハ使わざくカムのムカシ

ちりもく

娘子復報贈和歌一首

日縮手和のあや

絶常云者和備染責跡燒太刀乃隔付經事昔幸也吾君  
たゆとくそ、わびてみせんとやきどものへつよことハヨクモヤウモ  
燒を刀の枕泊至つハカハ鞘と角てオヨモギアキモテシテ  
奈何好吉哉吾妹トトあれば、くもよけくと御、まともしゆくよ早くかく  
ええども之を抱かくと、宝もも或人より幸ハ辛の傷多くかく

万解四一四十一

湯原王歌一首

吾妹兒爾戀而亂在久流部寸二懸而緣與余戀始

在者のはうるべし、和名抄云辨色主成反轉久流漢語鈔說同、繆車

唐韻云繆訓久絡系取也是年夏下繆字也

紀女郎怨恨歌三首え度人大夫之女名曰小鹿、安貴王之妻也  
世間之女爾思有者吾渡痛背乃河乎渡金目八

よのをあふえなすあく、わうつる。あなやのからとやうるがね  
初めハよみづねのかなうぐよとく、あすこソハあれど、あすせい。

西とすと、年年半じくの痛きにとあれハ首へそとの傷もくあがく

スハ廣背の後まくじろせう、度瀬川が事セヨアヤ、宮ちハ吉ハ君のほよ  
てキミのつもんがト一ト、打ちベー、ズのニキト合セラムシテニ  
前もるまくとあるあく人ゆ

無久

今者吾羽和備曾四二結類氣乃緒爾念師君乎綏左思者  
いまハあハミヒニリム、キカをよむわシキミをゆもや、くおりへは  
いきのとハ命とソムカトハヤクヒト通シム、ゆくぞヤツトモ、せつ  
にせん御座すたとこのうる用ひく、たとと外て、ちととかくといへば、  
く、もゆきとサハバノ利べれど、一本たと久よ化けバ、たは満玉一をさう  
とくじゆ

泣流

二誤

白妙乃袖可別日乎近見心爾咽飲哭耳四所泣

きくのとてりきまひをちえ、こうよじせびねのみーたりのゆ

泣と流と、一かようて改つ、飲え度を飲み化る、のうむねよむせじて

ゆくじゆ

万解四上終五十

010190519142

